



B M L

株式会社ビー・エム・エル 会社説明会

2024年3月15日
代表取締役社長
近藤 健介

目次

1. 会社概要
2. 事業概要
 - ① 検体検査事業
 - ② 食品衛生事業
 - ③ 電子カルテ事業
3. サステナビリティ
4. 業績サマリー
5. 株式情報・株主還元について

目次

1. 会社概要

2. 事業概要

- ① 検体検査事業
- ② 食品衛生事業
- ③ 電子カルテ事業

3. サステナビリティ

4. 業績サマリー

5. 株式情報・株主還元について

会社名	株式会社ビー・エム・エル (BML : Bio Medical Laboratories)
代表者	代表取締役社長 近藤 健介
本社所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目21-3
創業	1955年7月
資本金	60億円
連結従業員数	9,005名 (非正規従業員含む) 2023年3月末時点
グループ会社	連結19社 関連会社9社
上場市場	東証プライム (2023年度 日経400選定) 
証券コード	4694

沿革

- 1955年 ● 保存血液の製造及び販売を目的として東京都渋谷区に**株式会社相互ブラッド・バンク**を設立
- 1967年 ● 臨床検査センターを設置し、臨床検査の受託を開始
- 1985年 ● 埼玉県川越市で検査の中心となる**BML総合研究所**を始動
- 1989年 ● 株式会社ビー・エム・エルに商号を変更
- 2001年 ● **東京証券取引所第一部に上場**
- 2015年 ● 連結売上高1,000億円を達成
- 2020年 ● 新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)PCR検査の受託を開始
- 2024年 ● BML総合研究所 新棟竣工予定(8月)



企業理念

『豊かな健康文化を創造します。』

中期経営計画グループビジョン

『医療界に信頼され選ばれる企業をめざす。』

1

会社概要

売上高推移

(億円)

2,000



コロナ関連検査が寄与

目次

1. 会社概要

2. 事業概要

① 検体検査事業

② 食品衛生事業

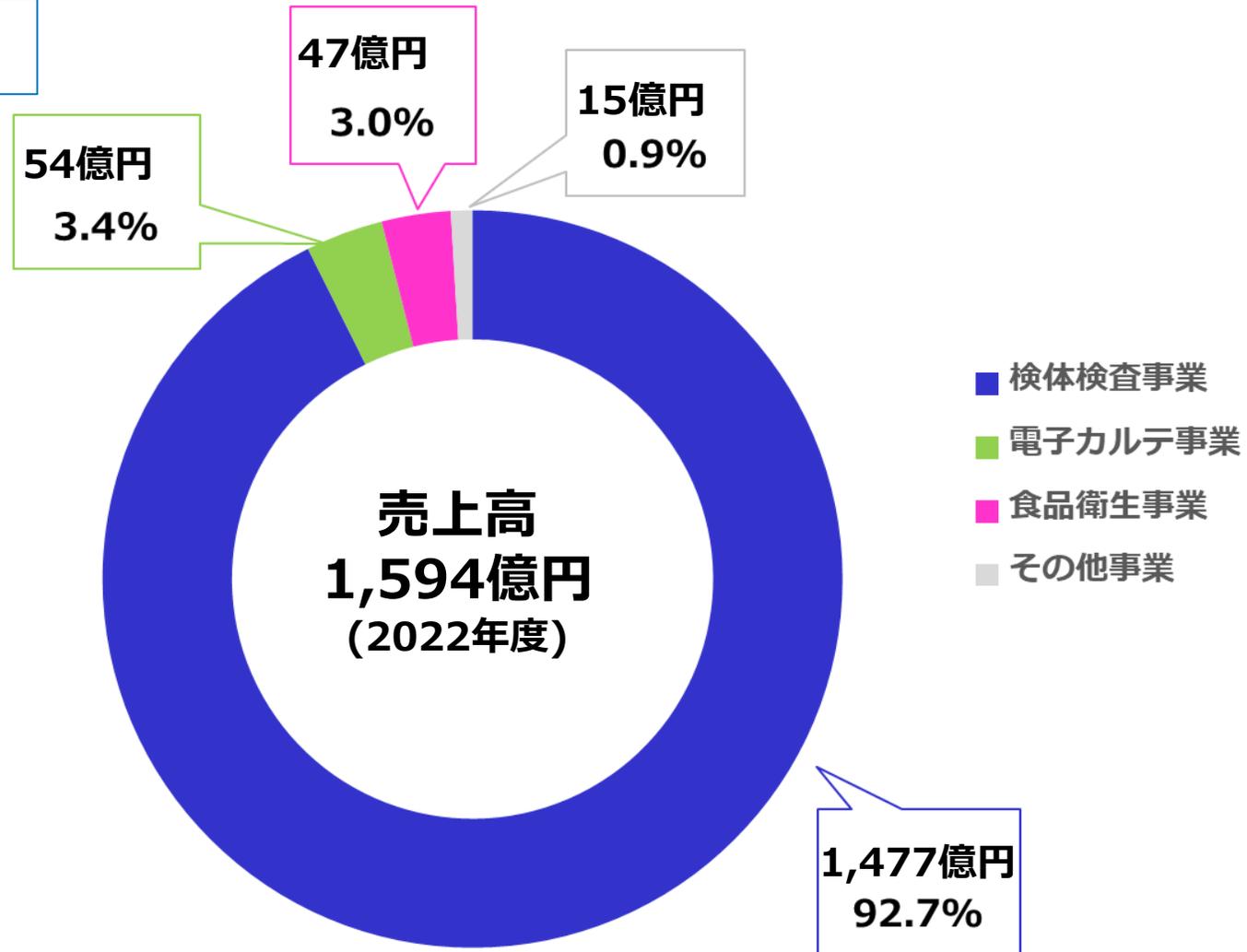
③ 電子カルテ事業

3. サステナビリティ

4. 業績サマリー

5. 株式情報・株主還元について

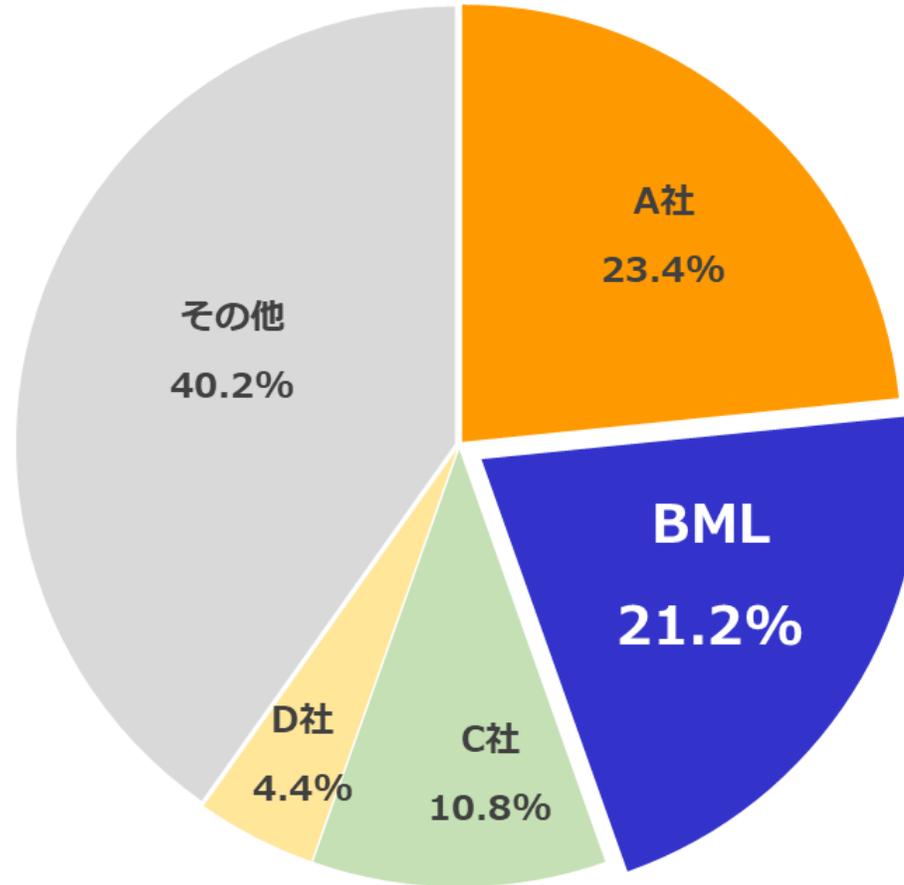
売上構成について



業界シェア

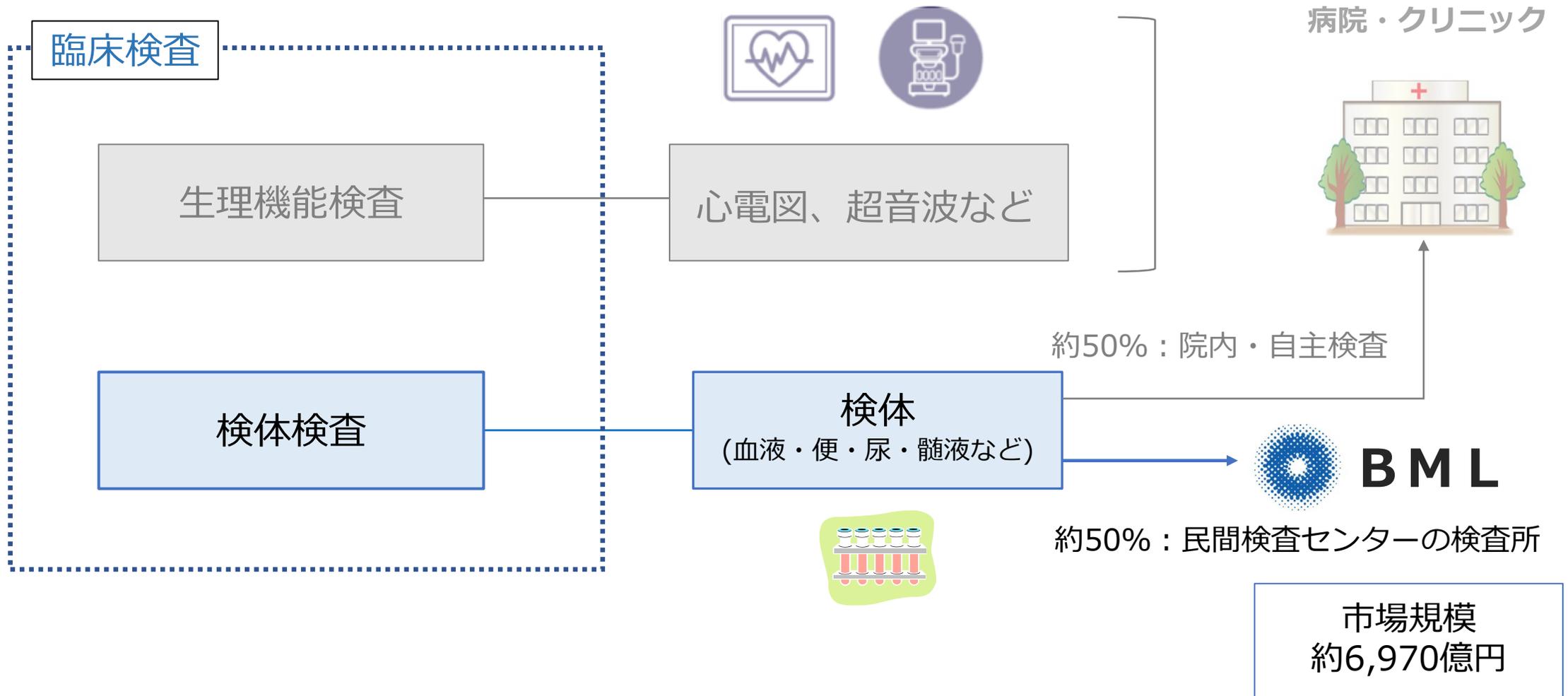
市場規模
約6,970億円*
(2022年度)

*コロナ関連検査含む



※矢野経済研究所
2023年版臨床検査センター経営総覧より出展

検体検査とは



具体的に行っていること

病院・クリニック



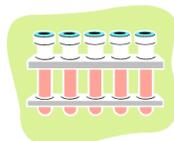
受診



採取 (採血)



検体



データ



検査結果報告書

BML 生化学 検査完了

000-00 石川七尾病院 検査完了

SAP92-00 施設No: 001-0001 宛先: 北

発 行 日 委・16年 4月 1日 9時

採 取 日 委・16年 4月 1日 9時 採血

氏 名 BML サンプル

科 室 No 36370 性別 男 35歳

項目名	IS	単	単位	基準値
#総蛋白 (TP)	6.8	g/dL	6.5~8.2	
#アルブミン (Alb)	1.6	g/dL	1.3~1.8	
#ビリルビン (Abi)	4.2	mg/dL	1.7~2.3	
#尿素窒素 (BUN)	10.0	mg/dL	7~10	
#クレアチニン (CrP)	0.8	mg/dL	0.3~0.7	
#AST (AST)	7	U/L	0~17	
#ALT (ALT)	6.5	U/L	0~30	

16/4/5 検査科 担当 佐藤

0009 検査科 担当 佐藤

BML

<BML総合研究所>



<拠点ラボ>

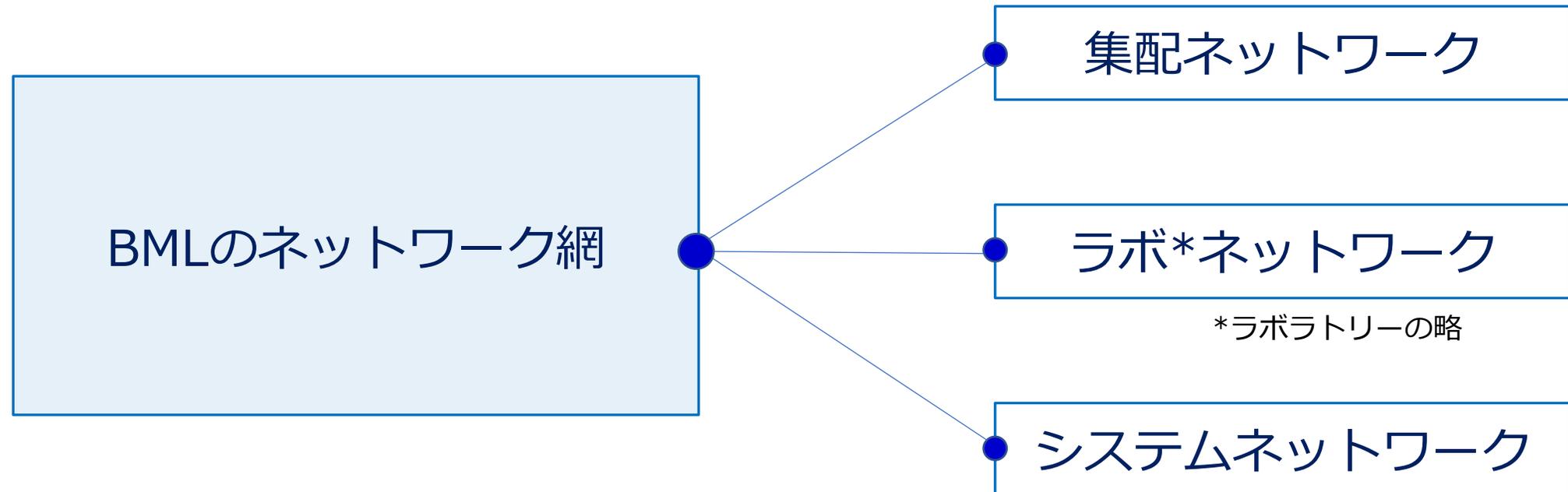


<緊急ラボ>



BMLの強み : 3つのネットワークを用いた全国展開

3つのネットワーク



集配ネットワーク

▶▶ 全国に拠点を持つ集配網

- 拠点数 116ヶ所
- 集配人員数 約2,300名
- 集配コース数 約1,800コース

集配ネットワーク
<運搬>

ラボネットワーク

▶▶ BML総合研究所を中心として全国82拠点のラボを運営

- | | | |
|------------|------|----|
| ● 緊急ラボ | 74ヶ所 | ● |
| ● 拠点ラボ | 7ヶ所 | ◎ |
| ● BML総合研究所 | 1ヶ所 | ◎◎ |



BML総合研究所

▶▶ BML総合研究所(既存棟)の概要

- 敷地面積 約9,600坪 (31,735.96㎡)
- 従業員数 約1,500名 (内非正規従業員 500名)
- 稼働体制 365日 24時間
- 測定能力 最大17万人/日



総合研究所

埼玉県川越市
関越道川越インターより車で15分



単独では国内最大級の検査所

徹底した検査ラインの自動化を追求

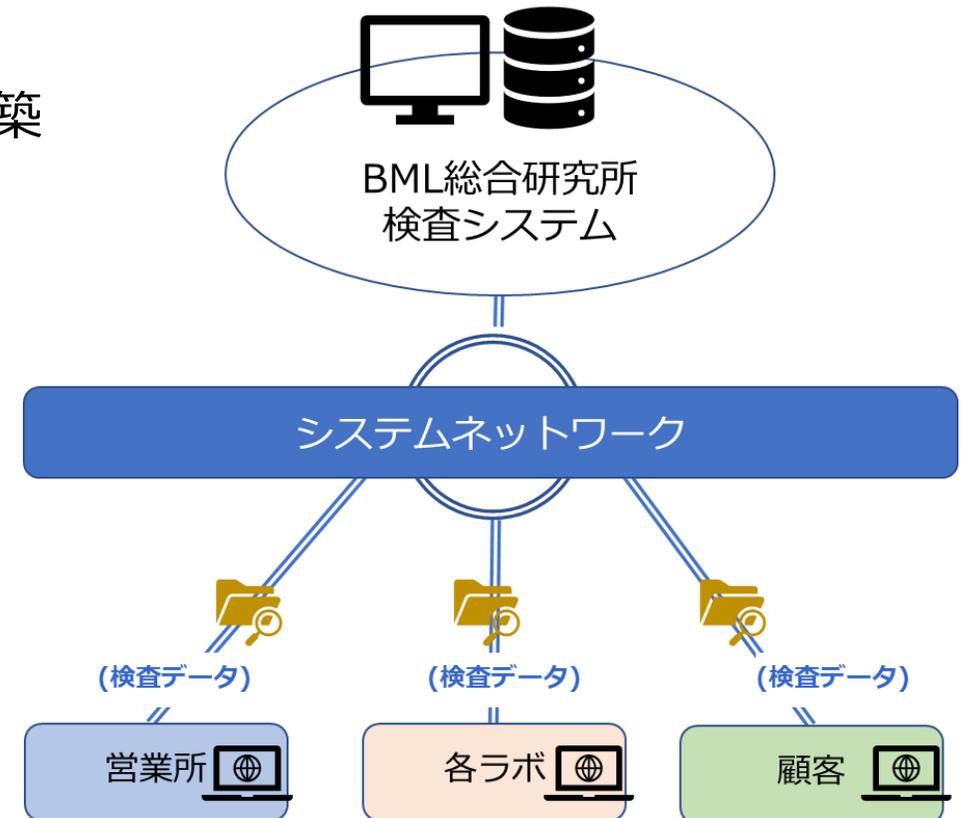


(自動化により人がいない検査室)

システムネットワーク

▶▶ BML総合研究所の検査システムを中心に
全国の営業所・ラボ・お客様を結ぶネットワークを構築

- 1日に最大35万人の検査を実施し、
このうち約70%の検査依頼と検査結果を送受信
- 検査情報などを提供



3つのネットワークによる利点

集配ネットワーク

ラボネットワーク

システムネットワーク

全国の医療機関を受診した
患者様の検査結果をそれぞれの医療機関に
正確かつ迅速に提供

検体検査事業

- ◆ 売上高 1,477億円
- ◆ 売上構成比 92.7%

保険適用 検体検査

- ・ 診断関連
- ・ 治療の経過観察関連
- ・ 薬効および副作用の予測 (“オーダーメイド医療”)関連

保険適用外 検体検査

- ・ 病気の予防と早期発見(検診など)関連
- ・ 研究関連

病気の診断・治療の経過観察

▶▶ 一般検査*¹から特殊検査*²まで、幅広い検査ニーズに対応

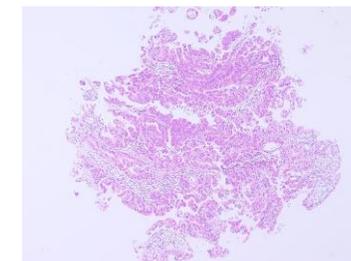
- 検査項目数：4,000項目超
- ゲノム解析などの高度な特殊検査にも対応
- 微生物および病理検査は日本最大級の検査数
- 独自検査項目の開発



(細菌検査 鏡検)



(ゲノム検査 前処理)



(染色した病理組織)

分野	主な独自検査項目
遺伝学的検査	FH遺伝子変異解析
	先天性難聴の遺伝子解析(51遺伝子1,140変異パネル)
	若年発症型両側性感音難聴の遺伝子解析 など

→ (例示) 信州大学と共同開発
 新生児の約500人に一人が難聴をもって出生
 → 早期発見することで、適切な医療へと導く検査

(*¹ 生化学的検査、血液学的検査、尿検査等)

(*² 免疫学的検査、微生物検査、病理検査、遺伝学的検査等)

薬効・副作用の予測 (“オーダーメイド医療”)

- ▶▶ “オーダーメイド医療”は、
特定の治療に対する薬効・副作用などの
個人差を判定する検査

例えば・・・

- 肺がん治療薬(イレツサ)に対応する検査としてEGFR検査があります

- 結果が陽性と判定された患者様：治療薬が有効 → 投与
- 結果が陰性と判定された患者様：治療薬が無効 → 別の治療薬を検討
- 検査により、適切な患者様にのみ治療薬を投与でき、それ以外の患者に対しては無駄な治療を回避



患者様の負担軽減および医療費削減が実現

検診

▶▶ 検診センターから受け取った検体検査を実施

- 正確な検査を提供して検診者の健康増進や疾患の早期発見に貢献
- 全国82ヶ所のラボの標準化を進め同一の検体をどこのラボで検査しても同じ検査結果になるよう活動
 - 来所検診から
 - 全国展開している巡回検診にも対応



(生化学的検査の風景)



研究開発

▶▶ 独自検査項目の開発

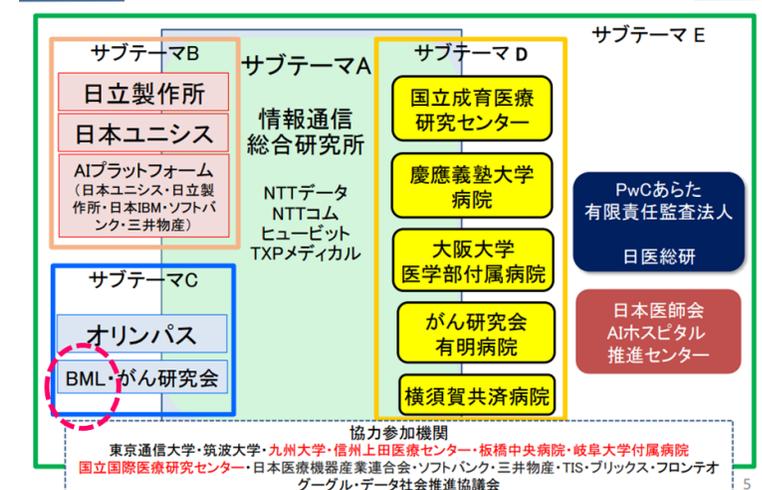
- ゲノム解析や質量分析技術などを用いた検査を独自に開発
 - ✓ シトステロール、カンペステロール、コレスタノール
 - ✓ SF3B1遺伝子変異解析 等



▶▶ 産学連携の実績も多数

- 「AIホスピタル」への参画 (主催：内閣府)
- 大学研究室の支援
- 多施設共同研究の支援

(AIホスピタルの連携体制図)



※国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
出展

目次

1. 会社概要

2. 事業概要

① 検体検査事業

② 食品衛生事業

③ 電子カルテ事業

3. サステナビリティ

4. 業績サマリー

5. 株式情報・株主還元について

食品衛生事業

- ◆ 売上高 47億円
- ◆ 売上構成比 3.0%

食品コンサルティング事業

- ・店舗点検
- ・工場監査・認証
- ・食品表示

検査事業

- ・食品検査
- ・腸内細菌検査

食品コンサルティング事業

▶▶ 店舗点検

- 対象：飲食店やホテル等の調理場
- 内容：食品衛生レベルの改善に向けた提言・指導

▶▶ 工場監査・認証

- 対象：コンビニや飲食店等のサプライヤーとなる食品工場
- 内容：基準に基づいた適合性を評価
認証取得のサポート
認証取得例) ISO. FSSC 22000. JFS規格

▶▶ 食品表示

- 対象：食品メーカー・百貨店などの販売店
- 内容：食品表示ラベルを法令等と照らした適切性を確認
一括表示ラベルの内容作成



(店舗点検)



(工場監査)

名 称	□□□□□□□□□□
原材料名	□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□
内 容 量	□□□□□□
賞味期限	□□□□□□□□□□
保存方法	□□□□□□□□□□
販 売 者	□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□

⚠️ お取り扱い上の注意

□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□

栄養成分表示(000g当たり)

熱 量	0 kcal
たんぱく質	0 g
脂 質	0 g
炭水化物	0 g
食塩相当量	0 g

(当社分析比)



ゴミに出すときは
市町村の区分に
したがつてください。



0 000000 000000

(一括表示ラベル)

検査事業

▶▶ 食品検査

- 多様な顧客ニーズに対応した検査を提供

例えば・・・

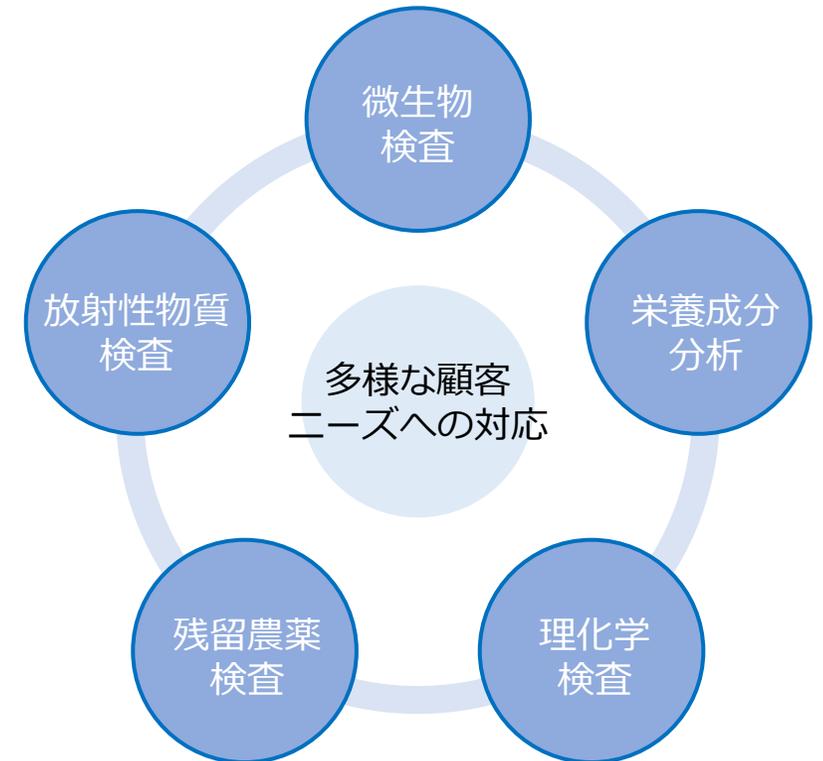


コンビニやスーパーのお弁当に対し、

- ・ 食品中に微生物などの有害物質が存在していないか
- ・ 成分表示記載内容に相違がないか
- ・ 誤って異物が混入していないか 等々



(食品検査)

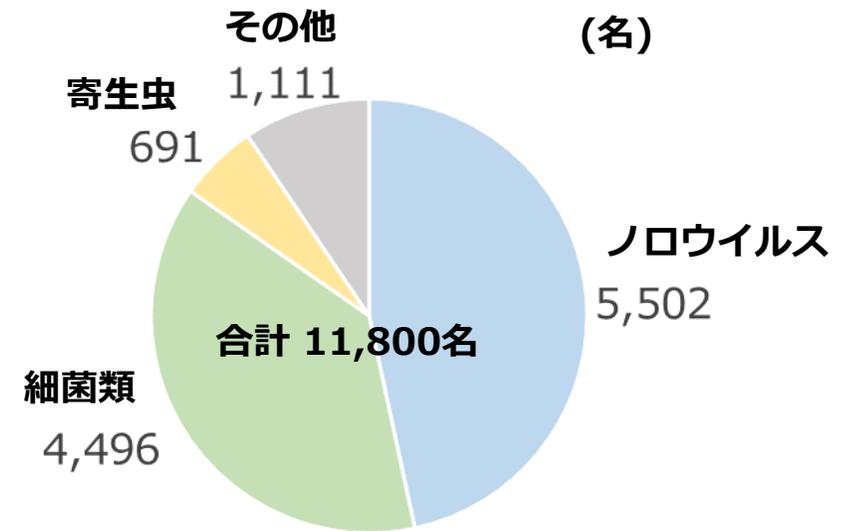


検査事業

▶▶ 腸内細菌検査

- 2023年は、年間11,800名の方が食中毒を発症
- 調理者を対象とし、健康保菌者*を早期に発見することで、二次感染を防ぐ

* 病原菌を保有しているが菌による症状が出ていない人

食中毒発生状況
(2023年)

※厚生労働省統計より(速報)

BMLグループの強み

<BMLグループと競合他社とのサービス領域の比較>

コンサルティング事業			検査事業	
店舗点検	工場監査・認証	食品表示	食品検査	腸内細菌検査
BMLグループ				
A社			A社	
C社				
D社				

- ▶▶ **すべての領域をカバーしているのはBMLグループのみ**
= 食品衛生事業の『総合コンサルタント』
- BMLグループですべてが完結

目次

1. 会社概要

2. 事業概要

① 検体検査事業

② 食品衛生事業

③ 電子カルテ事業

3. サステナビリティ

4. 業績サマリー

5. 株式情報・株主還元について

電子カルテ事業

- ◆ 売上高 54億円
- ◆ 売上構成比 3.4%

電子カルテ販売

- ・ Qualis (オンプレミス型)
- ・ Qualis Cloud (クラウド型)

保守・サポート

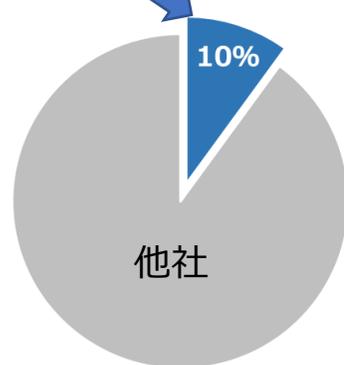
- ・ 導入サポート
- ・ コールセンター

電子カルテ

▶ 医療機関の情報ネットワーク化を推進するため 電子カルテ『Qualis』と『Qualis Cloud』を 製造・販売

- クリニック向け電子カルテのシェアは約10%
- 院内機器との拡張性が高い
- 小規模から大規模の
クリニック・診療所まで幅広くカバー

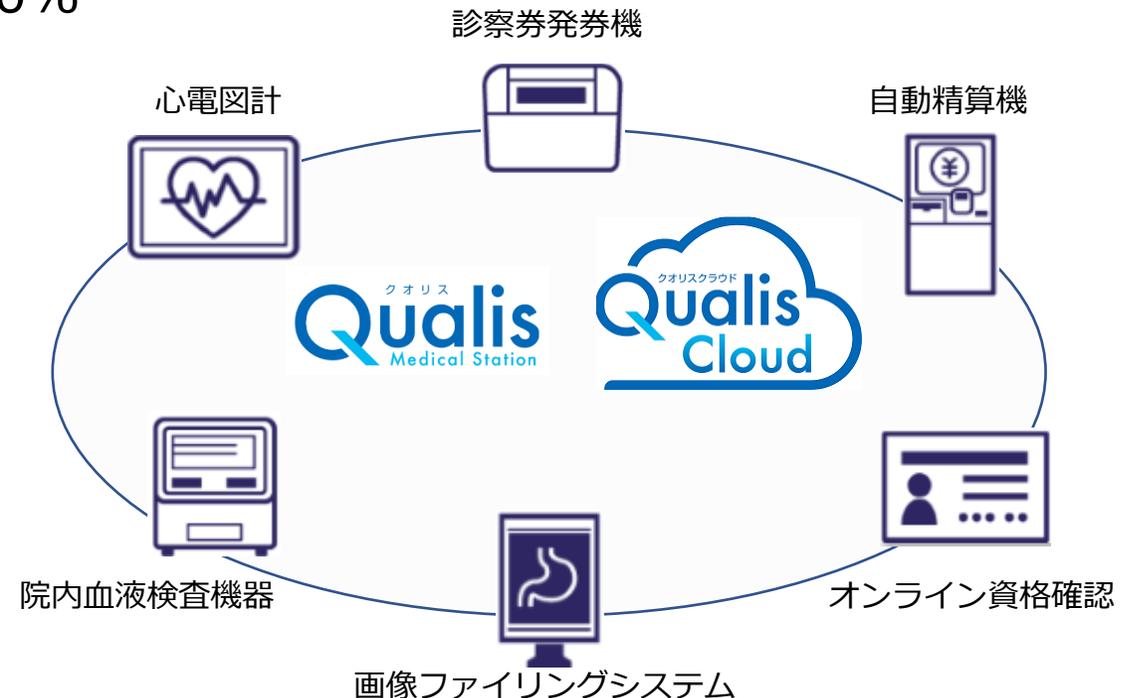
(電子カルテ市場シェア)
ビー・エム・エル



(当社調べ)



(電子カルテ)



目次

1. 会社概要
2. 事業概要
 - ① 検体検査事業
 - ② 食品衛生事業
 - ③ 電子カルテ事業
3. **サステナビリティ**
4. 業績サマリー
5. 株式情報・株主還元について

サステナビリティ基本方針

1.社会への貢献

医学検査技術を基盤に磨き上げた高度な技術・システム・サービスネットワークを活かして、医療の発展と人々の健康づくりに貢献します

2.環境問題への取組み

事業活動の全過程において地球環境の保護に取組み、また環境・健康に関連した検査サービスを提供することで、人と地球を大切にす持続可能な社会の実現をめざします

3.人権の尊重

企業活動によって影響を受ける全ての人々の人権を尊重します。また、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを推進し、安全で働きやすい企業風土の醸成に努めます

4.社会からの信頼の確立

法令や規則の遵守、公正かつ自由な競争、適切な情報開示など、誠実で公正な企業活動を遂行することで、社会から高い信頼を得る経営を実現します

環境への取組み



▶▶ 取組み① ラボにおける電気使用量の削減

● 太陽光発電装置の設置

新棟南壁面全面に発電パネルを設置し、
自然エネルギーを活用

● 空調設備の高効率化

高効率熱源機器によるエネルギー効率向上

(太陽光発電装置)



(空調設備)

(年間)
CO₂削減量
478t-CO₂/年

環境への取組み

▶▶ 取組み② 環境負荷軽減

● クリーンエネルギー車の導入

2030年度までに全ての車をEV車、HV車、PHV車のいずれかに切り替える方針

▶▶ 取組み③ 緑化対策

● 屋上緑地化

BML総合研究所では、屋上のスペースを利用し、断熱性の向上、景観の向上をはかり、屋上緑地化を実施



(EV車)



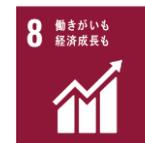
(屋上緑地化)



ダイバーシティ推進

▶ 女性職員が「働きやすく、働き甲斐のある」職場の実現

- 女性ワーキンググループ
 - ✓ 女性視点の意見を取り入れる
- 女性管理職登用に向けた研修
 - ✓ 女性職員から次世代の中核人財を輩出
- ダイバーシティ・イクボス研修
 - ✓ 全職員に対するダイバーシティを意識付け



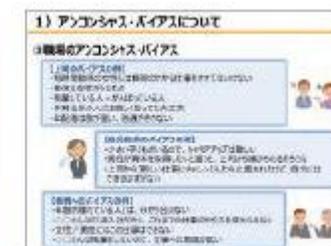
● 女性ワーキンググループ



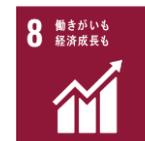
● ダイバーシティ推進の5ヶ年計画（2021年4月～2026年3月）

目標 1	管理職に占める女性比率を 13% 程度に引き上げる
目標 2	次期管理職候補に占める女性比率を 32% 程度に引き上げる
目標 3	男性職員の育児休業取得率を 10% 程度に引き上げる

● ダイバーシティ研修の実施



人財育成

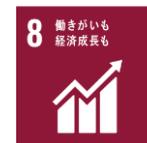


▶▶ 研修の実施

● 人財育成研修の実施

研修名	内容
e-ラーニング研修	メンタルヘルス／ダイバーシティ コミュニケーション／健康経営 イクボス／エンゲイジメント 育児・介護／コンプライアンス 他
ITリテラシー強化研修	情報セキュリティ／ネットワーク IoT／コンピュータ構成 SNSリスク／標的型攻撃メール Office の便利操作 他
階層別研修	役割認識研修 他
選抜研修	中核人財の多様性確保に向けた計画的な役割・ スキル研修 他

健康経営の推進



▶▶ 健康を保持・増進する職場環境の推進

- 社内報、健康経営通信等を定期的に発刊し、健康意識と知識の向上
- ストレスチェックの実施によるメンタルヘルス不調者の未然防止
- 健康経営優良法人(ホワイト500)に2年連続で認定



● 実績と目標

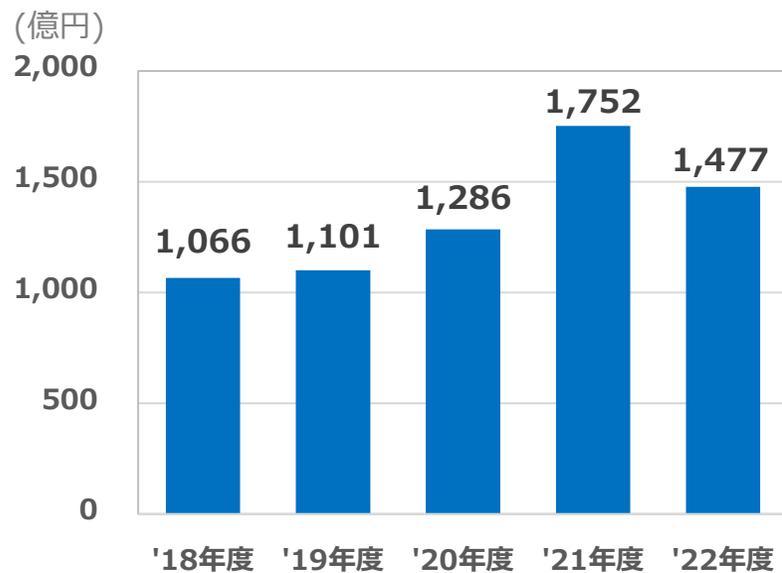
項目	2021年度	2022年度	2025年度目標
定期健康診断受診率	100.0%	100.0%	100.0%
ストレスチェック受検率	71.7%	86.6%	80.0%
月間所定外労働時間 (管理職を含む)	21.0時間	16.8時間	18.3時間
年次有給休暇取得日数	10.9日	12.1日	12.0日
健康増進研修参加率	98.2%	99.5%	100.0%
メンタルヘルス研修	97.0%	100.0%	100.0%

目次

1. 会社概要
2. 事業概要
 - ① 検体検査事業
 - ② 食品衛生事業
 - ③ 電子カルテ事業
3. サステナビリティ
4. **業績サマリー**
5. 株主還元について

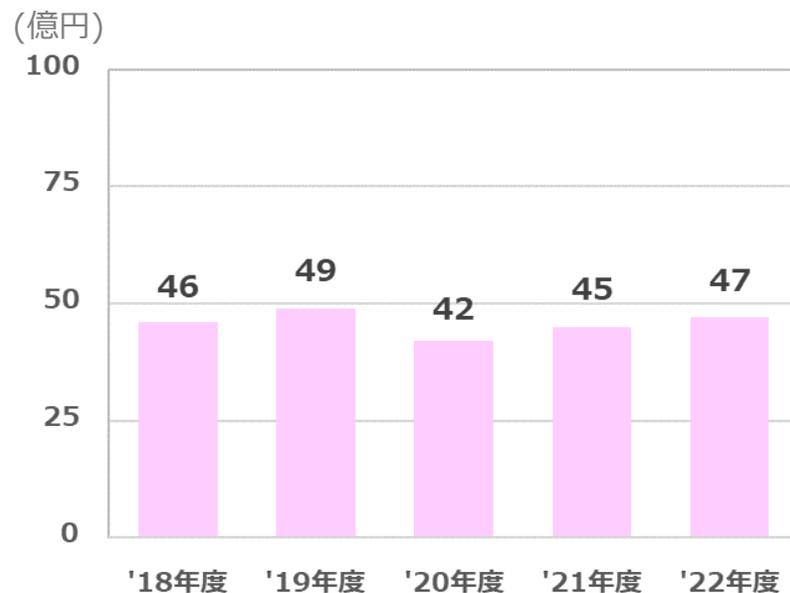
セグメント別売上

検体検査事業



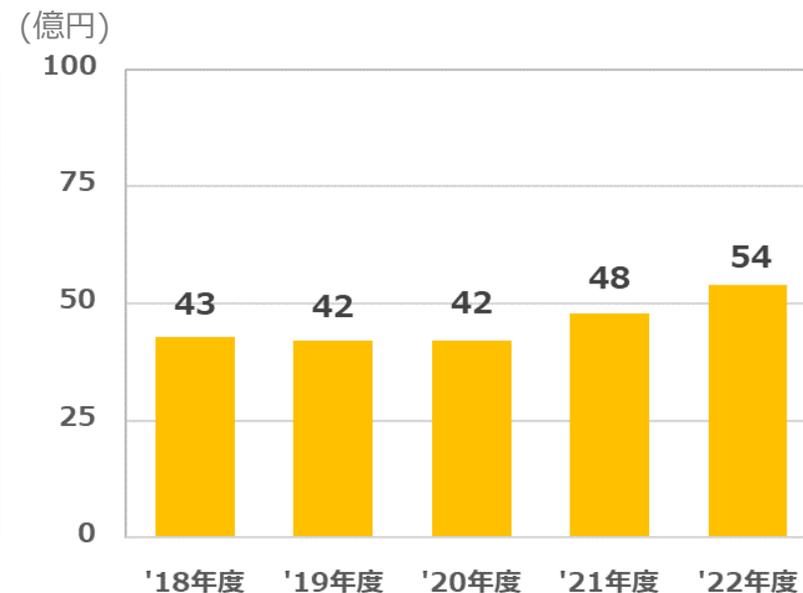
←-----→
コロナ関連検査が寄与

食品衛生事業



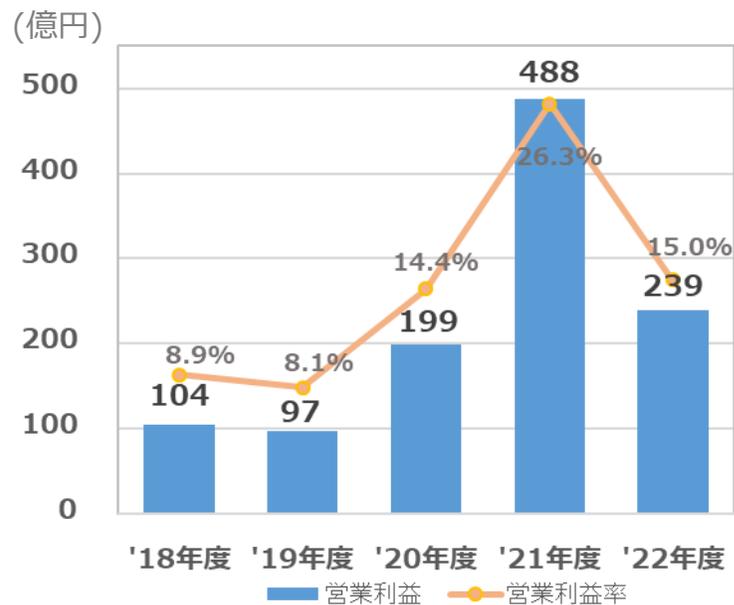
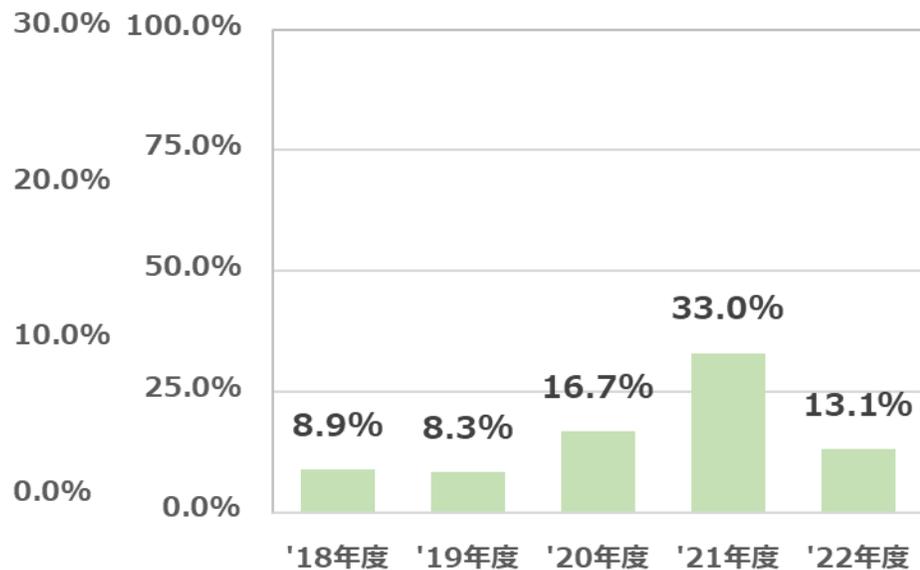
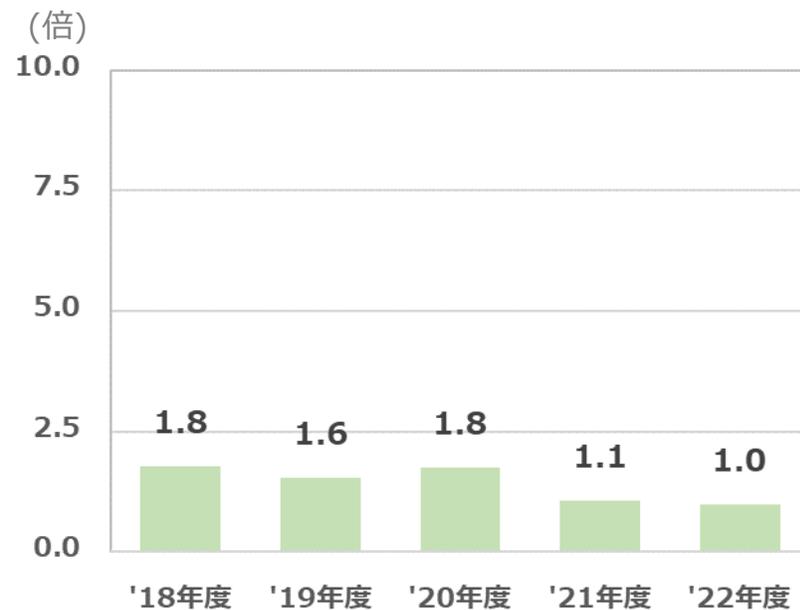
←-----→
コロナ禍の影響で
飲食店などが営業自粛

電子カルテ事業



財務データ

営業利益

ROE
(自己資本利益率)PBR
(株価純資産倍率)

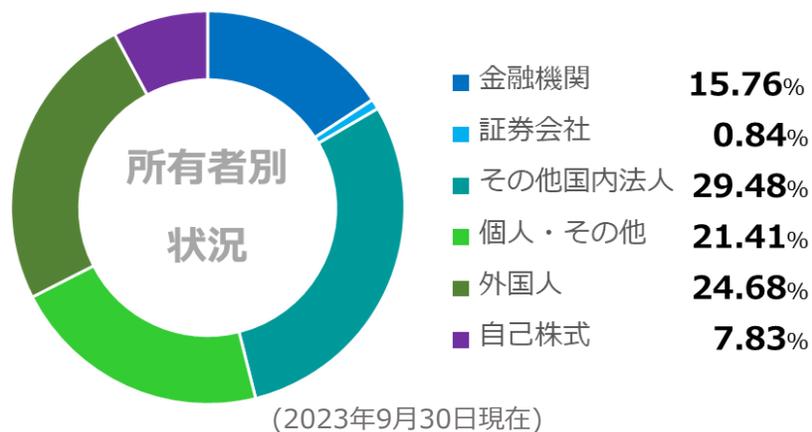
目次

1. 会社概要
2. 事業概要
 - ① 検体検査事業
 - ② 食品衛生事業
 - ③ 電子カルテ事業
3. サステナビリティ
4. 業績サマリー
5. **株式情報・株主還元について**

株式情報

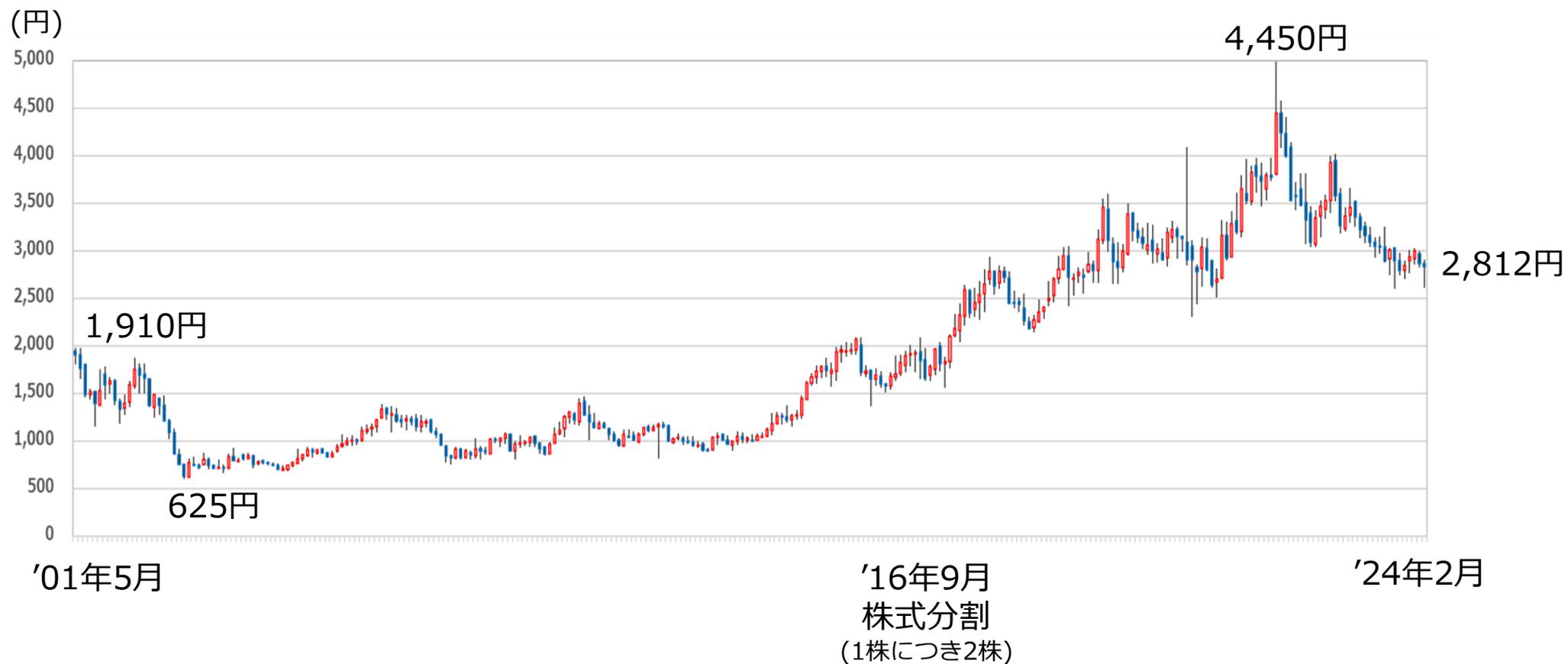
発行済株式数	42,613,626株
単元株式	100株
株価	2,956円/株 (3月14日現在)
配当予想 (2023年度)	中間 40円 ・ 期末40円 年間 80円(予想)

(株主構成)



株価推移

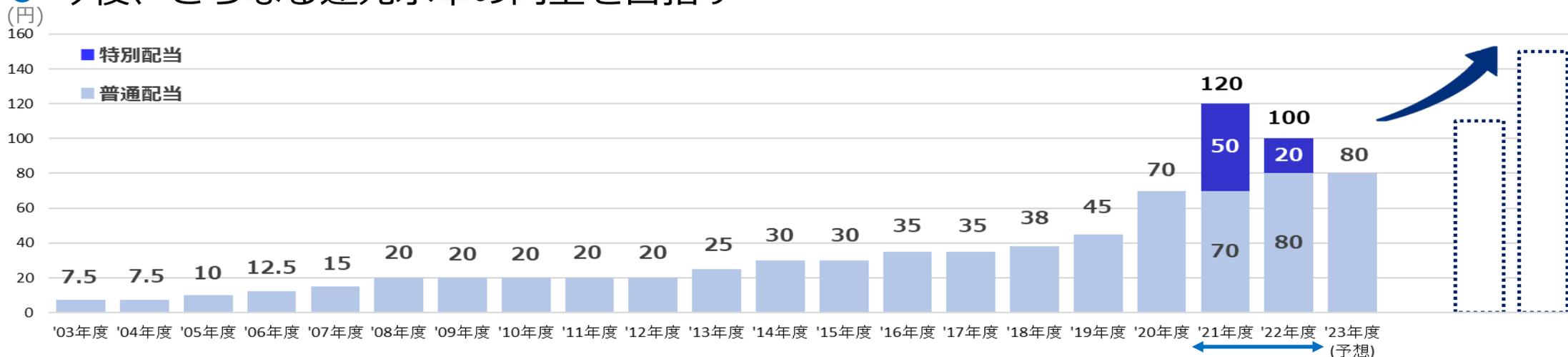
▶▶ 株価は堅調に推移 (分割後の株価で掲載)



株主還元

▶▶ 配当金

- 基本方針は安定配当の維持・継続
- 普通配当は上場以来、減配することなく右肩上がりを継続
- 今後、さらなる還元水準の向上を目指す



コロナ関連検査特需に伴う
特別配当の実施

▶▶ 自己株式の取得

- 2021年度 50億円
- 2022年度 10億円

株主還元

▶▶ 株主優待

- 200株以上の保有者
QUOカード 3,000円
- 100株～200株未満の保有者
QUOカード 1,500円

※ 保有期間の定めなし

※ 配当・優待基準日3月31日





B M L

株式会社ビー・エム・エル

会社説明会